

伝統を正しく継承

このように、住まいづくりはさまざまな要素が混ざり合ってはじめて、本格的なものになるといえます。伝統のある古い町並みのなかで、狭小な敷地に新しい住まいを創るには、大変わずらわしいことが多いかもしれませんが、時間をかけて取り組むことにより、伝統を正しく継承し、かつ現代的な感覚の住空間を創ることが可能になるでしょう。

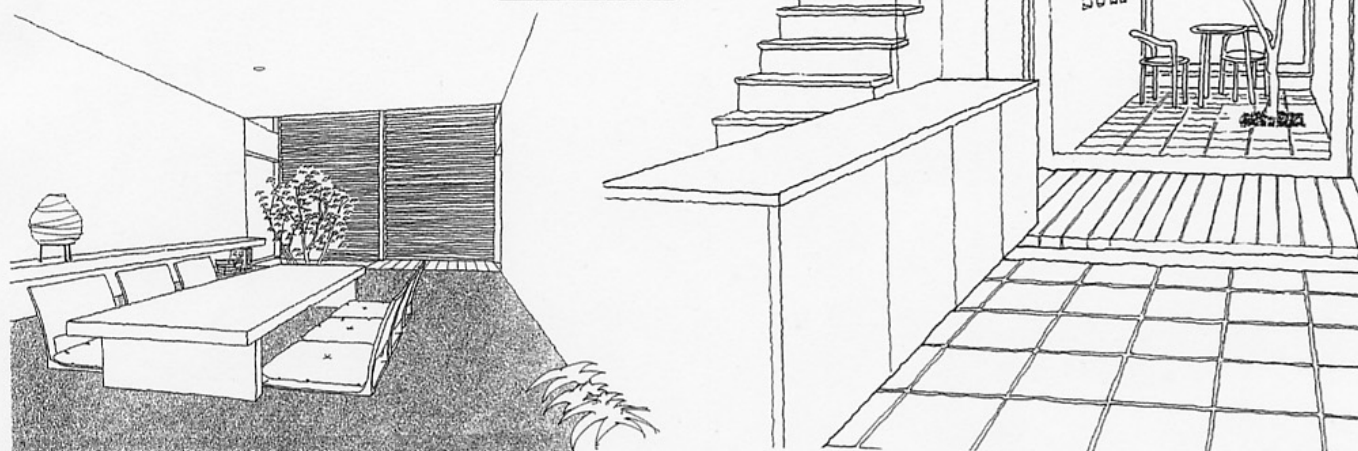
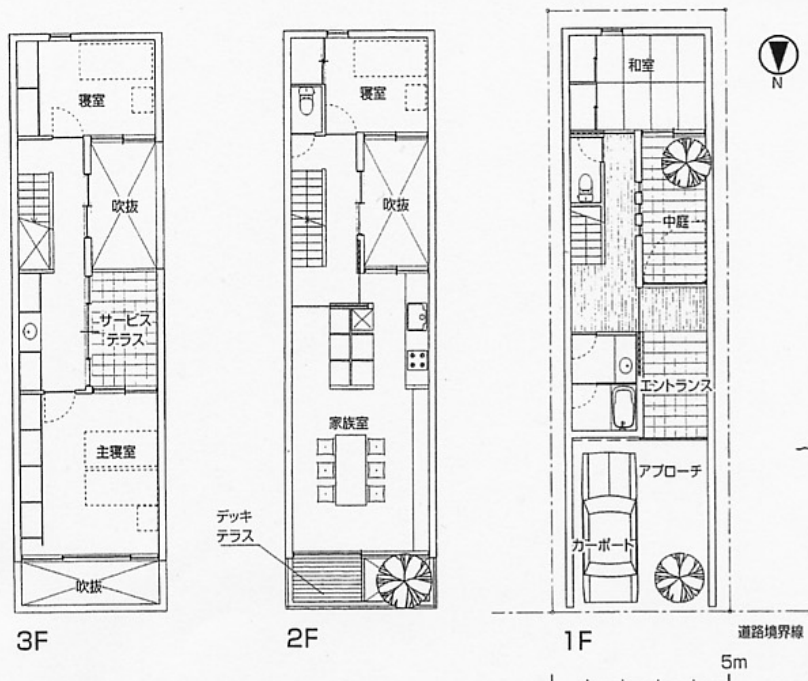
このような住まいづくりを続けていくことにより、街に深み加わり、魅力的な町並みを形成するとともに、地域の文化の向上に貢献しながら、楽しく暮らすことができるよう努力したいものです。

吉村 篤一

この街に住み続けたい

プラン提案

②



型式 都市型3階建住宅

想定 単世帯住宅

家族構成: 夫婦・子供2人

敷地状況: 細長い町家型の敷地

周囲は住宅などが密集している

建蔽率/容積率: 60%/200%

敷地面積: 5×17m=85m² (25.7坪)

DATA

敷地面積:	85.00m ²
建築面積:	50.35m ² (15.2坪)
延床面積:	150.10m ² (45.4坪)
1階:	56.05m ²
駐車場19m ² 含む	
2階:	50.35m ²
3階:	43.70m ²
構 造:	1階RC造、 2・3階木造軸組

- 外観……スリムな外観は1階をRC造・2~3階を木造軸組とし強度を持たせながら素材の演出を考え、2~3階部分をルーバー状の木製スクリーンで覆った。その結果、建物の表情の変化と交通量の多い前面道路からのプライバシーが保てることになる。入口部分の床は、京風であれば瓦敷きか洗出を、モダンを意識するならテラコッタに壁は白が好ましい。
- プラン……狭さ・圧迫感を感じさせない、のびやかに暮らせる、それでいてプライバシーが保てる空間を考えた。玄関を入ると空に開いた小さな中庭が見通せ奥行きがより強調される。先人の工夫を取り入れ、光と風の通りの良い空間の演出に努めた。中庭に面する奥の部屋はよりプライバシーの高い部屋となり、家族構成によって様々な使い方が生まれる。



暮らし方研究会会員
赤塚史明
(あかつか しろあき)

PROFILE

- 1963年 大阪市生まれ。
- 近畿大学理工学部建築学科卒業
- REA建築工房を経て
- 1996年 造・建築空間研究所設立